
新潟勤労者総合福祉センター
(新潟テルサ)
今後の方針について
報告書

令和8年3月



< 目 次 >

概 要	1
1. 公共施設に対する市民の意識	2
(1). 公共施設の課題の認知	2
(2). 公共施設を維持・存続するための取り組み	4
(3). 公共施設の見直しで考慮すること	5
2. 新潟テルサ 「ホール」の利用状況	6
(1). 利用団体（興行主等）の利用状況	6
(2). 施設管理者と興行主へのヒアリング	11
(3). 新潟市民の利用状況	12
3. 新潟テルサ 「貸室（会議室等）」の利用状況	14
(1). 団体（興行主等）の利用状況	14
(2). 新潟市民の利用状況	18
4. 新潟テルサ 「フィットネスセンター」の利用状況	20
(1). フィットネスセンター利用者の利用状況	20
(2). 新潟市民の利用状況	23
5. 新潟テルサの代替施設	25
(1). ホールの代替施設	25
(2). 貸室（会議室等）の代替施設	26
(3). フィットネスセンターの代替施設	27
6. 公共施設の統合や廃止・新潟テルサの廃止について	28
(1). 公共施設の統合や廃止による利用しづらさについて	28
(2). 新潟テルサに対する市の方針について	29

概要

目的

新潟勤労者福祉センター（新潟テルサ）のあり方を検討するため、これまで実施したアンケート調査や代替可能性調査の結果等を合わせて分析し、今後の方針を検討するための参考資料とするものです。

分析に利用した調査結果

- (1) ホール施設利用状況アンケート調査（令和5年度実施） **市**
調査対象者：15歳以上の新潟市民 4,000人 回答数：1,848人
 - (2) 市政世論調査（「公共施設のこれからについて」）（令和5年度実施） **市**
調査対象者：15歳以上の新潟市民 4,000人 回答数：2,093人
 - (3) 興行主ヒアリング調査（令和5年度実施） **個**
調査対象者及び回答者：興行主 2者
 - (4) 管理者ヒアリング調査（令和5年度・令和7年度実施） **個**
 - (5) 新潟テルサフィットネスセンターお客様アンケート調査（令和6年度実施） **個**
調査対象者：フィットネスセンター利用者 403人 回答数：343人
 - (6) 代替可能性調査（令和6年度実施）
 - (7) 新潟テルサ利用状況アンケート調査（令和7年度実施） **個**
調査対象者：直近5年間で（新潟テルサの）継続的な利用のある利用者（団体） 185団体 回答数：138団体
 - (8) 新潟テルサ市民アンケート調査（令和7年度実施） **市**
調査対象者：15歳以上の新潟市民 4,000人 回答数：1,071人
- ※ **個**施設利用団体等個別のアンケート **市**市民4,000人を対象に実施したアンケートを示す

新潟勤労者福祉センター（新潟テルサ）の概要

勤労者をはじめとする市民の教養・文化及び福祉の向上並びに健康の増進を図ることを目的とした施設で、ホール、貸室、フィットネスセンターを運営しています。

所在地：新潟市中央区鐘木 185-18

駐車場（無料）：専用約 600 台 臨時約 1,400 台（周辺施設と共用） 車椅子用 5 台

施設名		収容人数
ホール		1,510
貸室	大会議室	150
	中会議室	62
	特別会議室	62
	小会議室（2室）	20
	研修室（2室）	54
	和室（3室）	8

フィットネスセンター
主な施設
トレーニングルーム
プール、スタジオ
浴室、サウナ等

1. 公共施設に対する市民の意識

(1). 公共施設の課題の認知

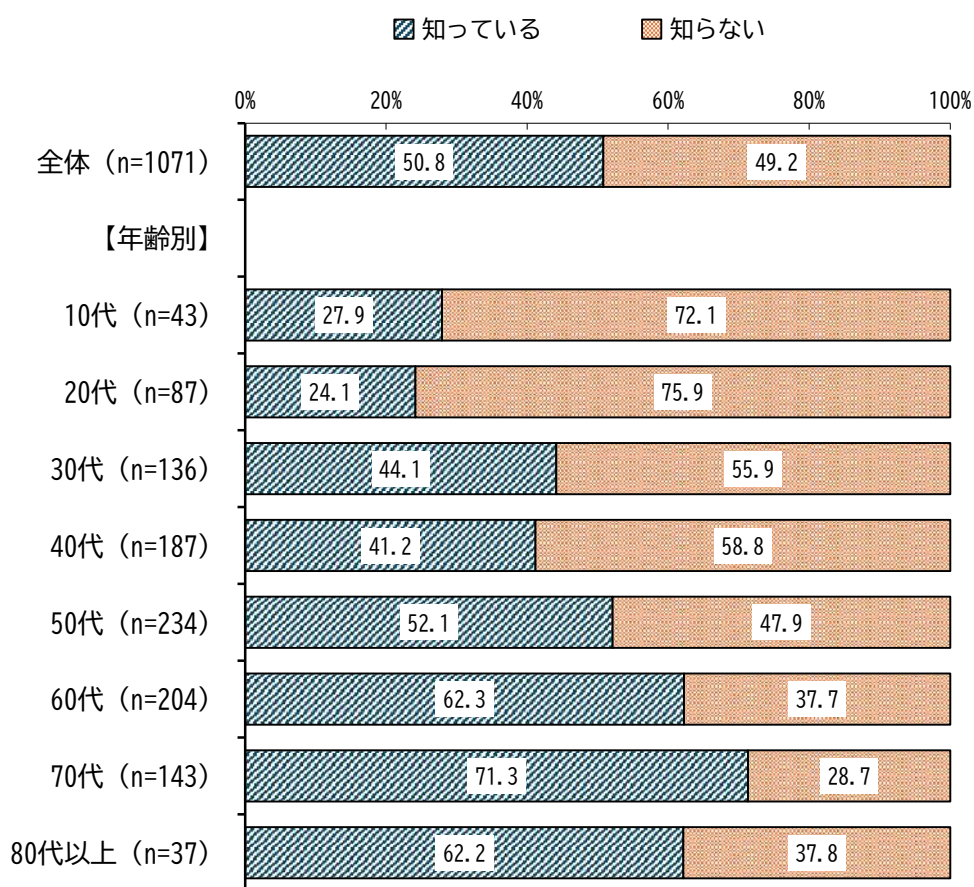
新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

◆新潟市の公共施設の課題の認知

公共施設の課題を「知っている」は約5割

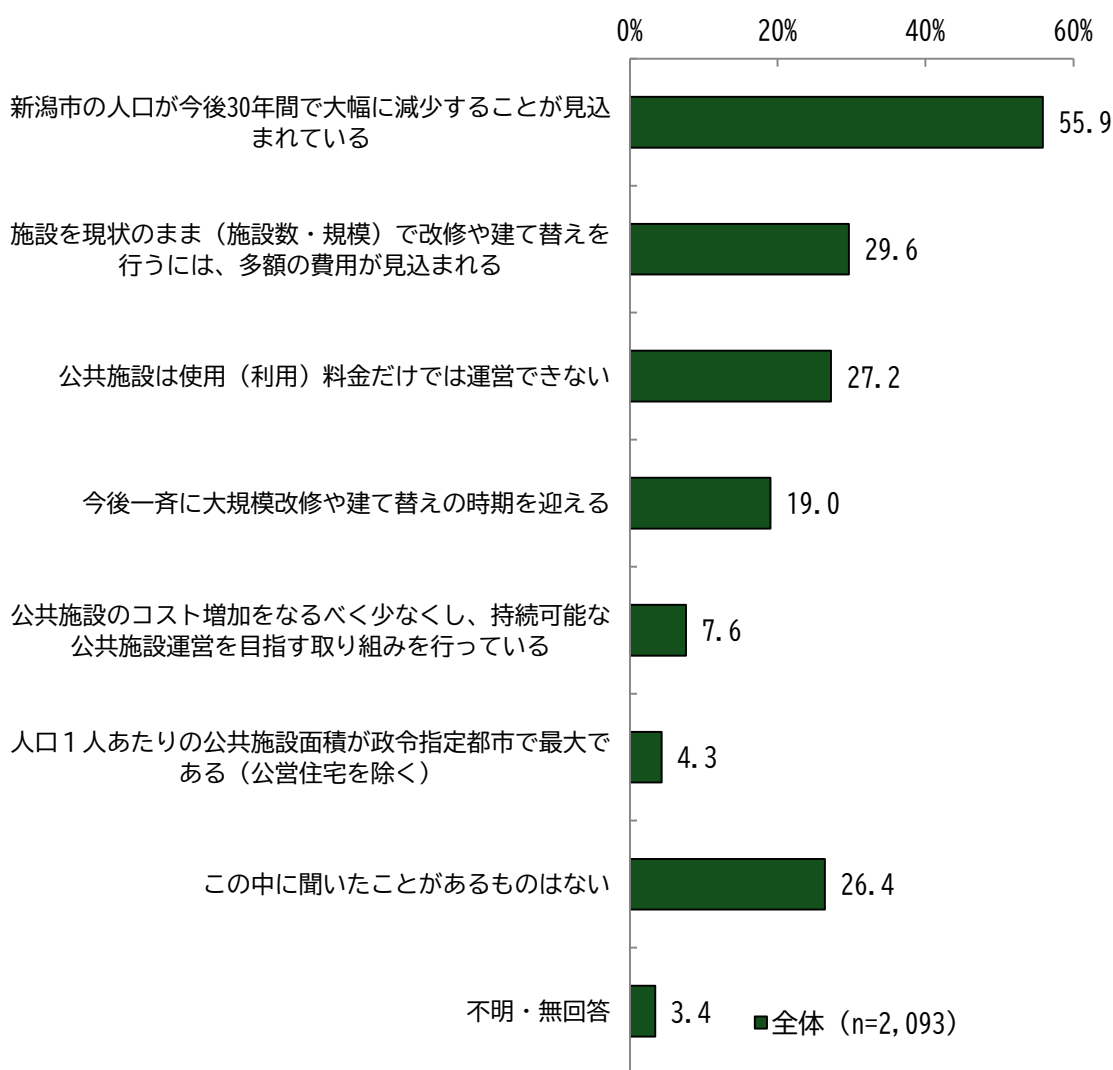
人口が増加していた昭和 50 年代に整備がすすめられた公共施設の老朽化が進む中で、施設の安全性やそれに伴う整備、更新（建替え）に係る財政負担が課題となっていることについて、「知っている」(50.8%)、「知らない」(49.2%) とともに約5割となっています。

年齢別では、「知っている」の割合が最も高いのは70代(71.3%)で約7割となっていますが、最も低い20代(24.1%)では2割半ばと差が大きくなっています。概ね年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられます。



「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」が5割半ばでトップ

「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」（55.9%）と聞いたことがある人の割合が高く、5割半ばとなっています。次いで、「施設を現状のまま（施設数・規模）で改修や建て替えを行うには、多額の費用が見込まれる」（29.6%）が約3割、「公共施設は使用（利用）料金だけでは運営できない」（27.2%）が2割半ば、「今後一斉に大規模改修や建て替えの時期を迎える」（19.0%）が約2割となっています。



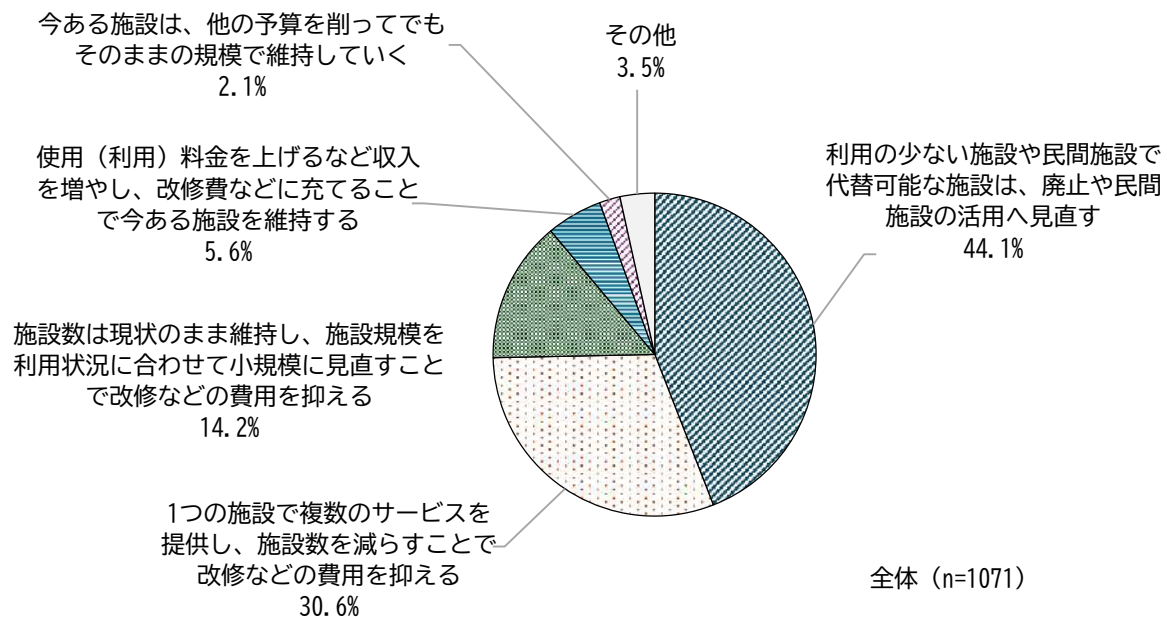
(2). 公共施設を維持・存続するための取り組み

新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

◆限られた財源の中で公共施設を維持・存続するためによいと思う取り組み

「施設数を減らす」が7割半ば

「利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す」(44.1%)の割合が最も高く4割半ばとなっています。次に「1つの施設で複数のサービスを提供し、施設数を減らすことで改修などの費用を抑える」(30.6%)が約3割、この2つを合わせた『施設数を減らす』の割合は74.7%となっています。その次に「施設数は現状のまま維持し、施設規模を利用状況に合わせて小規模に見直すことで改修などの費用を抑える」(14.2%)、「使用(利用)料金を上げるなど収入を増やし、改修費などに充てることで今ある施設を維持する」(5.6%)の順に割合が高くなっています。「今ある施設は、他の予算を削ってでもそのままの規模で維持していく」は、2.1%となっています。



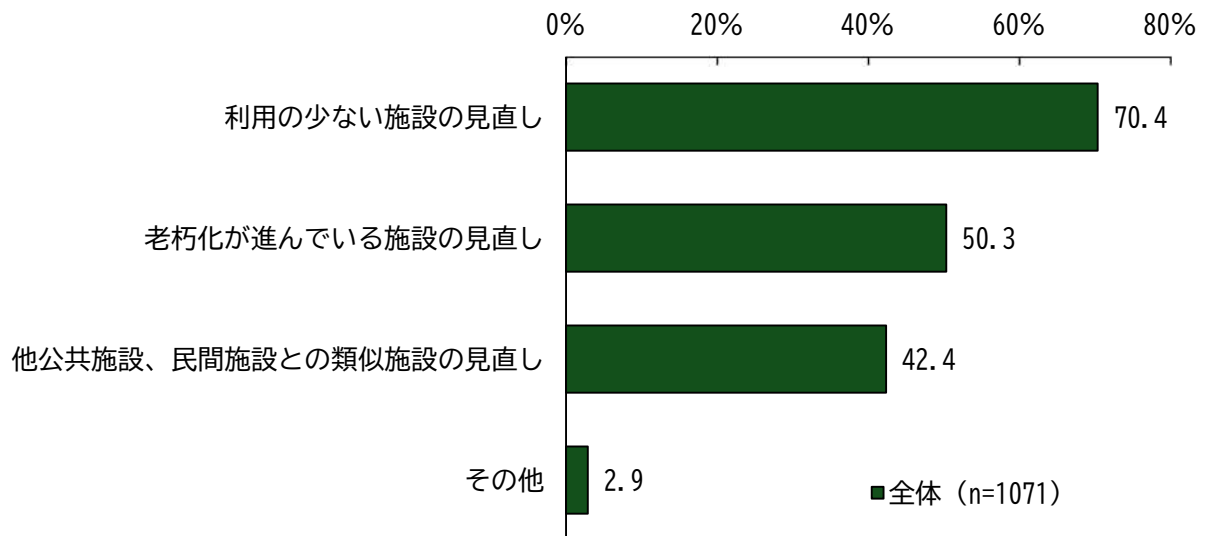
(3). 公共施設の見直しで考慮すること

新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

◆公共施設の見直しで考慮すべきこと

「利用の少ない施設の見直し」が約7割、「老朽化が進んでいる施設の見直し」が約5割

公共施設の見直しで考慮すべきことについて、「利用の少ない施設の見直し」(70.4%)の割合が最も高く約7割となっています。次いで「老朽化が進んでいる施設の見直し」(50.3%)が約5割、「他公共施設、民間施設との類似施設の見直し」(42.4%)が4割強と続いています。



2. 新潟テルサ 「ホール」の利用状況

(1). 利用団体（興行主等）の利用状況

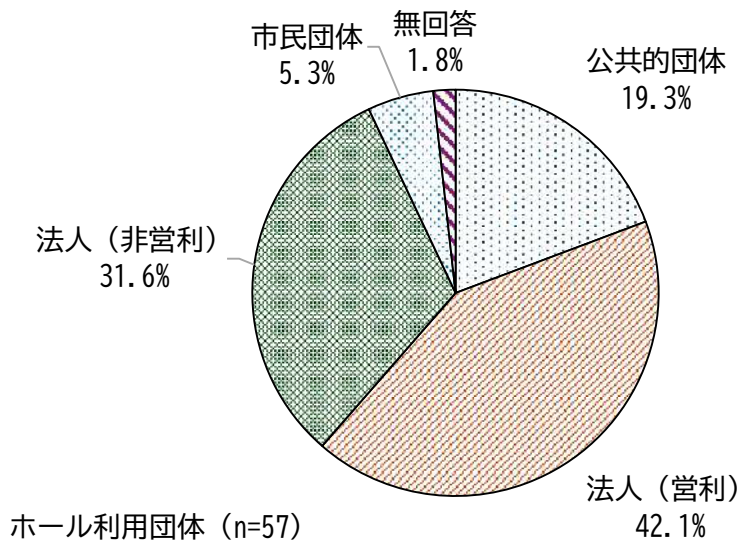
④新潟テルサ利用状況アンケート調査（R7）より

※直近5か年で新潟テルサの「ホール」を継続的に利用している利用者（団体）を対象にアンケート（57団体が回答）

◆団体種別

7割半ばは「法人」が利用

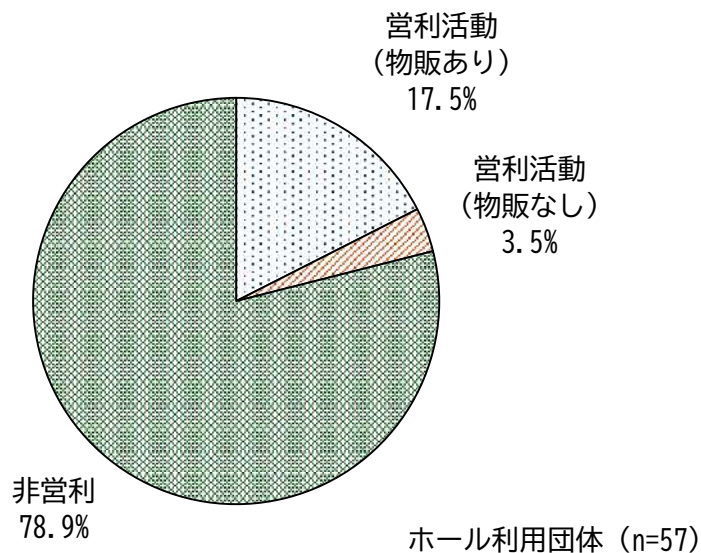
利用している団体は、「法人（営利）」の割合が最も高く42.1%、次に「法人（非営利）」が31.6%となっており、法人の利用は合計で73.7%となっています。「公共的団体」は19.3%、「市民団体」は5.3%となっています。



◆活動目的

約8割は「非営利活動」

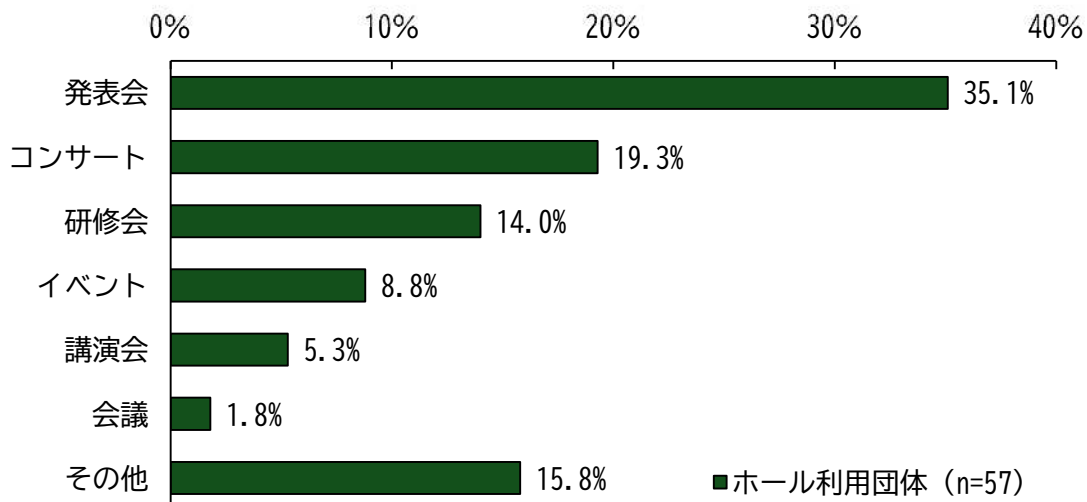
活動の目的は、「非営利」の割合が最も高く78.9%となっています。「営利活動（物販あり）」は17.5%、「営利活動（物販なし）」は3.5%と、営利活動の合計は21.0%となっています。



◆活動内容

「発表会」が3割半ばでトップ、「コンサート」が約2割で続く

活動内容は、「発表会」の割合が最も高く35.1%、次いで「コンサート」(19.3%)、「研修会」(14.0%)、「イベント」(8.8%)、「講演会」(5.3%)の順に続いています。



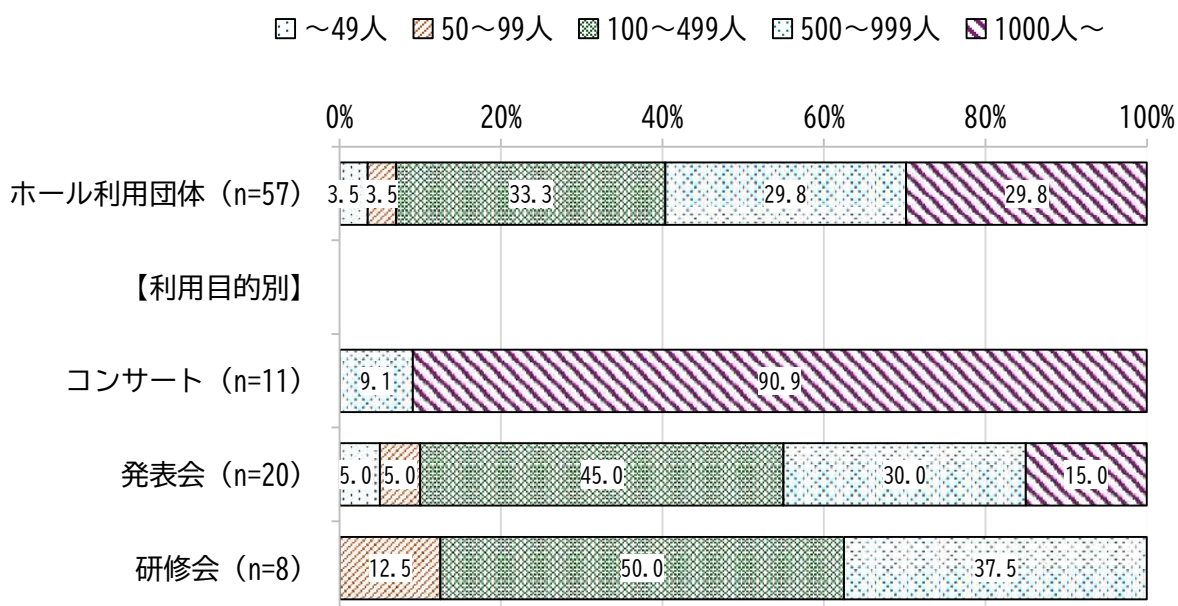
◆活動規模

コンサートは「1000~1499人」、発表会・研修会は「100~999人」

全体としては、「100~499人」(33.3%)、「500~999人」、「1000人~」(いずれも29.8%)の順に割合が高く、100人以上の合計で93.0%となっています。

コンサートでの利用は、「1000人~」で90.9%を占めています。

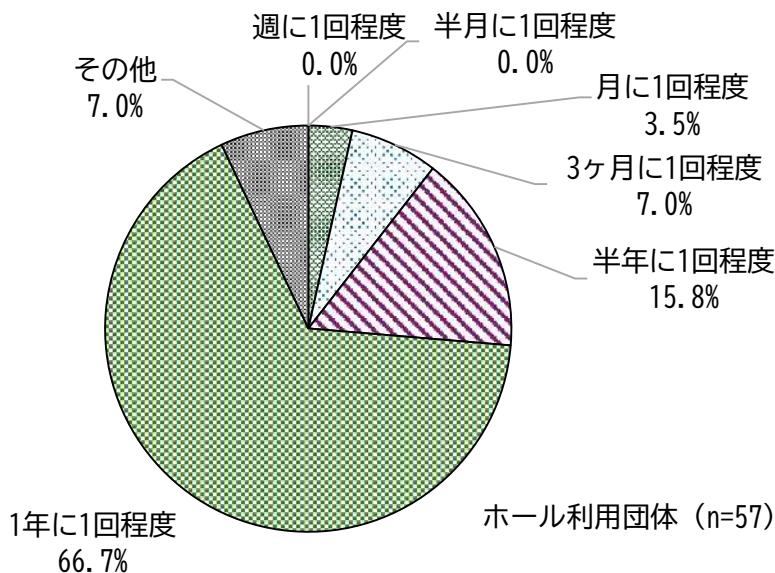
発表会と研修会は、「100~499人」と「500~999人」の割合が高く、100~999人の合計の割合は、発表会で75.0%、研修会で87.5%となっています。



◆利用頻度

「1年に1回程度」が3分の2

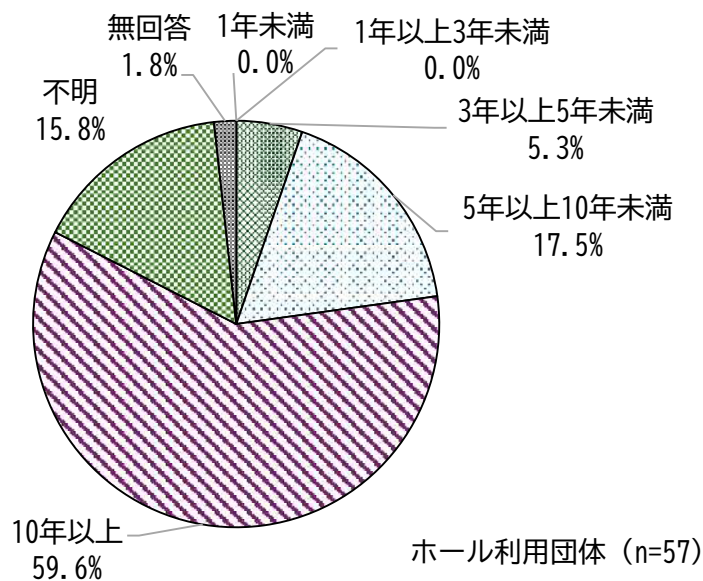
利用頻度は、「1年に1回程度」が66.7%と最も割合が高くなっています。次いで「半月に1回程度」（15.8%）、「3ヶ月に1回程度」（7.0%）の順に続き、「月に1回程度」以上は3.5%と少なくなっています。



◆利用期間

「10年以上」が約6割

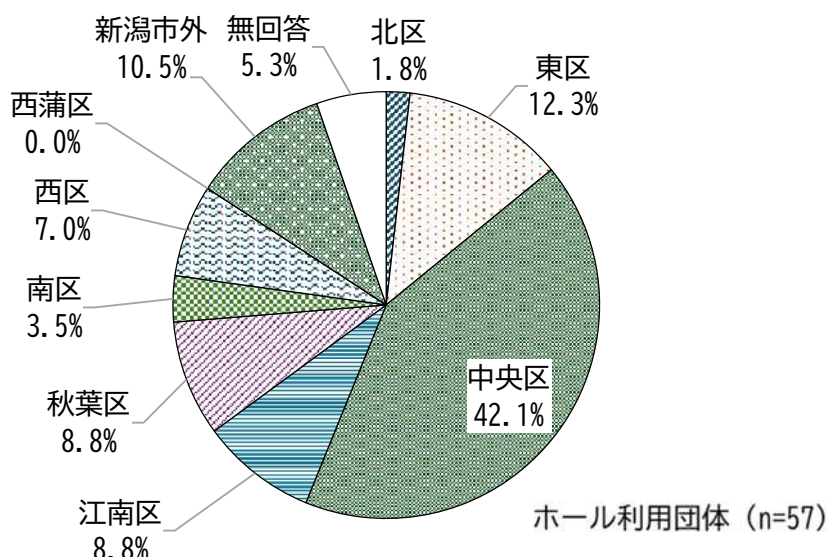
利用期間は、「10年以上」が59.6%と最も割合が高く、次いで「5年以上10年未満」（17.5%）、「3年以上5年未満」（5.3%）の順に続いています。



◆所在地

4割強が「中央区」

利用団体の所在地は、中央区が42.1%で最も割合が高くなっています。次いで「東区」(12.3%)、「新潟市外」(10.5%)、「江南区」、「秋葉区」(いずれも8.8%)、西区(7.0%)の順に続きます。



◆他の施設を利用する場合の利用可能エリア

約9割が「中央区」を希望。発表会や研修会は「中央区以外」でも可能の割合が高い

他の施設を利用する場合の利用可能エリアは、中央区が91.2%で最も割合が高くなっています。次いで「江南区」(36.8%)、「東区」(33.3%)、西区(19.3%)の順に続きます。中央区のみを回答した団体は42.1%(24団体)で、残りの57.9%は中央区以外での開催も可能と答えています。

活動内容別では、コンサートと比較して、発表会や研修会は、他の区の割合が高く、中央区のみを回答した団体は、コンサートで66.7%、発表会で30.0%となっています。研修会では、無回答を除き、すべての団体が他の区でも可能と回答しています。

割合 (%)	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	新潟市外	無回答	※中央区のみ
全体 (n=57)	12.3	33.3	91.2	36.8	17.5	8.8	19.3	3.5	1.8	3.5	42.1

【活動内容別】

コンサート (n=11)	18.2	18.2	90.9	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	66.7
発表会 (n=20)	10.0	35.0	85.0	45.0	20.0	10.0	35.0	5.0	0.0	0.0	30.0
研修会 (n=8)	12.5	75.0	87.5	62.5	12.5	25.0	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0

◆施設を選ぶ際の必要条件

「収容人数」、「駐車台数」、「立地」が3トップ。発表会や研修会は「立地」の割合が低い

施設を選ぶ際の必要条件は、「収容人数」（93.0%）と「駐車場台数」（82.5%）の割合が8割以上と高くなっています。次いで「市内全域からアクセスしやすい立地」（57.9%）、「利用料金が他と比べて安価であること」（42.1%）、「本格的な機械設備」（40.4%）、「簡易な機械設備」、「予約が可能になる期間」（いずれも33.3%）の順に続いています。

活動内容別では、コンサートと比較して、発表会や研修会は、「市内全域からアクセスしやすい立地」の割合が低くなっています。

割合 (%)	収容人数	駐車場台数	市内全域からアクセスしやすい立地	利用料金が他と比べて安価であること	本格的な機械設備	簡易な機械設備	予約が可能になる期間	公共交通によるアクセスが可能	物販が可能であること	営利活動（物販除く）が可能であること	施設内のバリアフリー	飲食が可能であること	その他
ホール利用団体 (n=57)	93.0	82.5	57.9	42.1	40.4	33.3	33.3	19.3	17.5	10.5	8.8	5.3	8.8

【活動内容別】

コンサート (n=11)	100.0	63.6	81.8	54.5	72.7	0.0	36.4	36.4	54.5	27.3	18.2	9.1	9.1
発表会 (n=20)	95.0	95.0	50.0	30.0	55.0	30.0	50.0	15.0	5.0	10.0	10.0	0.0	10.0
研修会 (n=8)	87.5	75.0	62.5	25.0	0.0	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2). 施設管理者と興行主へのヒアリング

④施設管理者・興行主ヒアリング調査 (R5) より

※施設再編を実行していく上での現実の利用状況精査に向けた施設管理者等へのヒアリング
(同圏域内で新潟市が運営する、新潟テルサとりゅーとぴあについて実施)

◆施設管理者ヒアリング

老朽化が進んでいる・設備も古い。りゅーとぴあとは、音楽ジャンルが異なる

施設の現状・課題

- ・ 新潟テルサは老朽化が進んでおり、特に音響設備は他施設に比べ古い機材となっている。
- ・ りゅーとぴあは大規模改修を実施済みであり顕在化している課題はないが、照明、音響設備や内装に潜在的な課題は存在する。

個別機能の利用状況

- ・ 新潟テルサはホールその他、会議室、フィットネスセンターで構成され、利用圏域については、フィットネスセンターは近隣の利用が多いことが特徴。また、ホールは多目的であることが特徴であり、土日はコンサート、平日は企業や学校のイベントなど幅広い利用がある。
- ・ りゅーとぴあはコンサートホールその他、劇場や能楽堂、スタジオ等で構成され、コンサートホール及びスタジオは稼働率が安定的に高く予約が取りづらい。また、コンサートホールは興業で使われることが多いが、アマチュアの演奏会やパイプオルガンのレッスンなどでも使われている。

ホールの特徴

- ・ 新潟テルサは駐車場が無料であり、台数が多いことが特長。また、りゅーとぴあはクラシックコンサートが多く使われるのに対し、ポピュラー音楽は新潟テルサが多い。
- ・ りゅーとぴあの劇場は音響や照明灯のシステムが新しいことが特長である。また、コンサートホールは講演にも使用できる。

◆興行主ヒアリング

新潟テルサは予約開始時期が早いので優先採用

りゅーとぴあとは用途が異なる。新潟テルサがなくなった場合、イベント総量は減る

興行の実態

- ・ りゅーとぴあ、新潟テルサの間では互換性はなく、用途が異なる。J-POPのライブイベントはりゅーとぴあでは実施できない。小規模コンサート（アコースティック）や落語等を能楽堂で実施することもある。
- ・ おおむね県民会館→新潟テルサの順で興行を企画する。ただし、自動車での利便性や予約開始時期が県民会館より早期であるため新潟テルサを優先して採用することもある。
- ・ 新潟テルサが廃止となった場合、新潟県内で現在企画しているイベントの総量を代替で会場を確保し開催することは考えられない（50～70%減）。

施設規模

- ・ 金沢、長野、富山など北陸圏内他地域では、2,000名以上収容可能な施設がある。現状の施設規模でも興行は可能だが、理想としては2,000名以上のホールが新潟県内にあっても良い。2,000名以上収容の施設と、1,200名規模程度の中規模ホールが一つずつあるのが理想。

市場評価 代替性

- ・ 県庁所在地の新潟に立地しているから興行が成り立つ。一部のイベントを長岡で実施することもあるが、代替は利かない。市内他施設での代替も不可能。
- ・ 新潟テルサが廃止されると、現状で実施しているイベントの総量を代替施設で実施することはできないので困る（又は北陸圏の他都市で開催することになる）。

(3). 新潟市民の利用状況

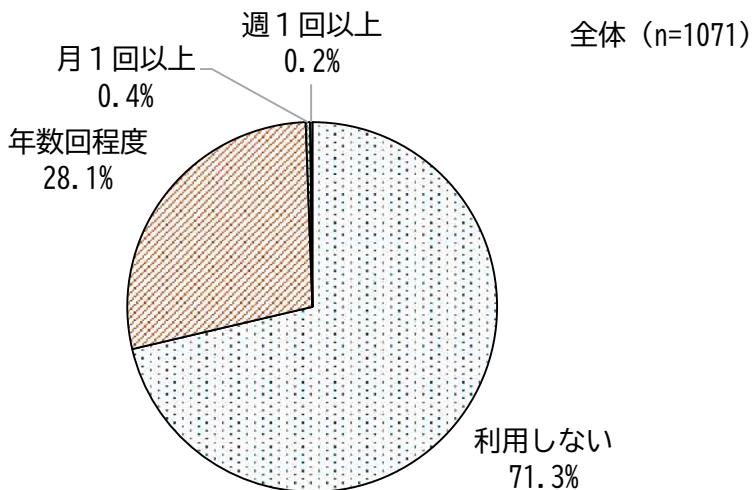
■新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

※15歳以上の市民4,000人を対象にアンケート(1,071人が回答)

◆新潟テルサのホールの利用頻度

7割以上は「利用しない・使用しても年数回程度」

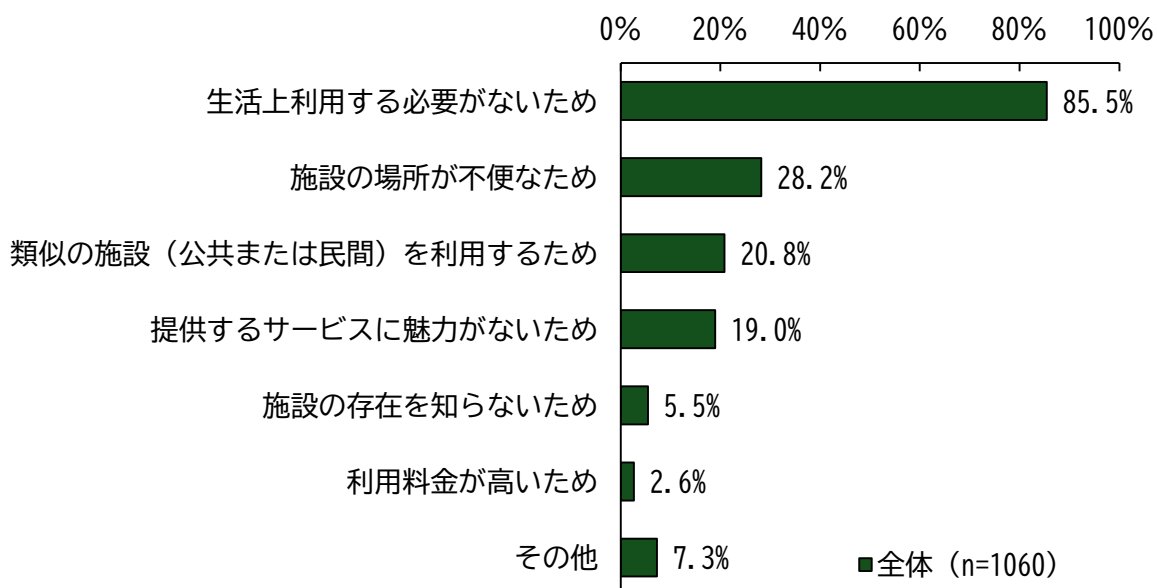
新潟テルサのホールの利用頻度は、「利用しない」が71.3%で最も割合が高く、次いで「年数回程度」(28.1%)、「月に1回以上」(0.4%)、「週に1回以上」(0.2%)と続いています。



◆新潟テルサのホールを利用しない理由

「生活上利用する必要がないため」が8割半ば

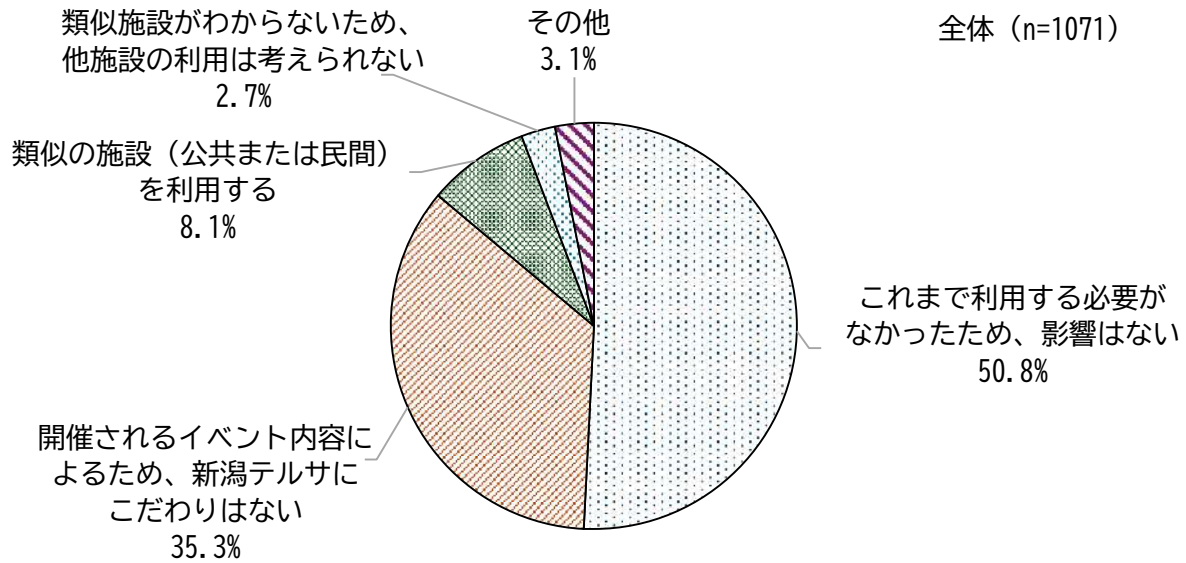
新潟テルサのホールを利用しない理由は、「生活上利用する必要がないため」(85.5%)の割合が8割半ばで最も高く、次いで「施設の場所が不便なため」(28.2%)、「類似の施設(公共または民間)を利用するため」(20.8%)、「提供するサービスに魅力がないため」(19.0%)、「施設の存在を知らないため」(5.5%)、「利用料金が高いため」(2.6%)の順に続いています。



◆新潟テルサのホールが廃止になった場合

「影響はない・こだわりはない」は、8割半ば

新潟テルサのホールが廃止になった場合、「これまで利用する必要がなかったため、影響はない」(50.8%)の割合が最も高く約5割となっています。次いで「開催されるイベント内容によるため、新潟テルサにこだわりはない」(35.3%)、「類似の施設(公共または民間)を利用する」(8.1%)の順に続く。「類似施設がわからないため、他施設の利用は考えられない」は2.7%とわずかとなっています。



3. 新潟テルサ 「貸室（会議室等）」の利用状況

(1). 団体（興行主等）の利用状況

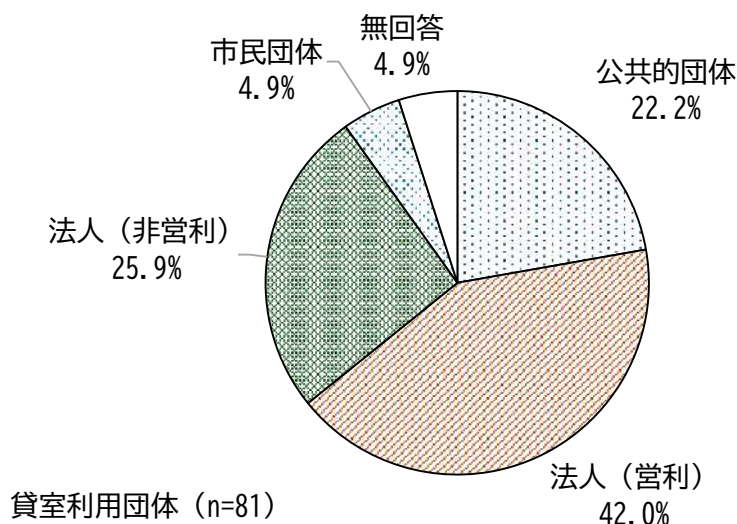
④新潟テルサ利用状況アンケート調査（R7）より

※直近5か年で新潟テルサの「貸室（会議室等）」を継続的に利用している利用者（団体）を対象にアンケート
（81団体が回答）

◆団体種別

7割近くは「法人」が利用

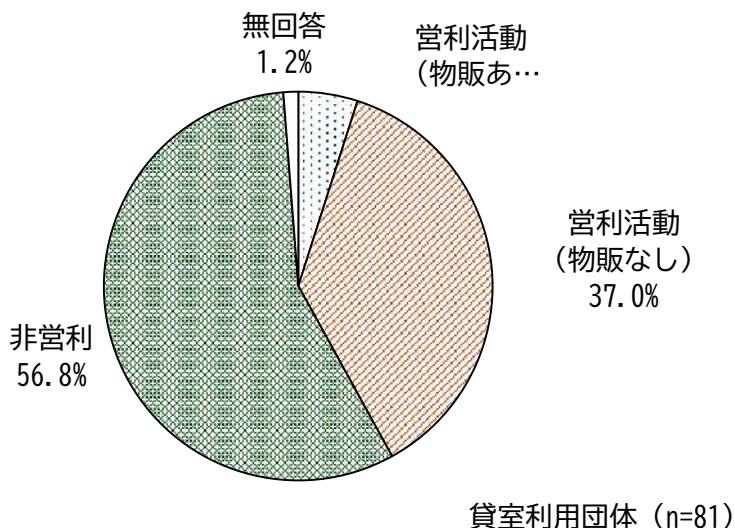
利用している団体は、「法人（営利）」の割合が最も高く42.0%、次に「法人（非営利）」が25.9%となっており、法人の利用は合計で67.9%となっています。公共的団体は22.2%、市民団体は4.9%となっています。



◆活動目的

5割半ばは「非営利活動」

活動の目的は、「非営利」の割合が最も高く56.8%となっています。「営利活動（物販あり）」は4.9%、「営利活動（物販なし）」は37.0%と、営利活動の合計は41.9%となっています。

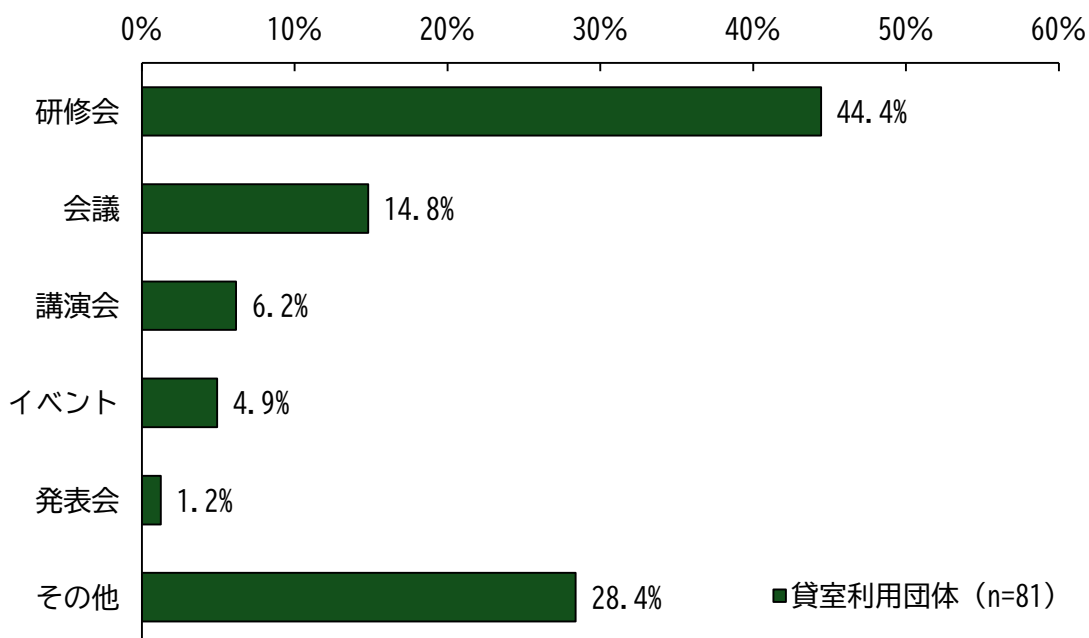


◆活動内容

「研修会」が4割半ばでトップ、「会議」が1割半ばで続く

活動内容は、「研修会」の割合が最も高く44.4%、次いで「会議」(14.8%)、「講演会」(6.2%)、イベント(4.9%)の順に続いています。

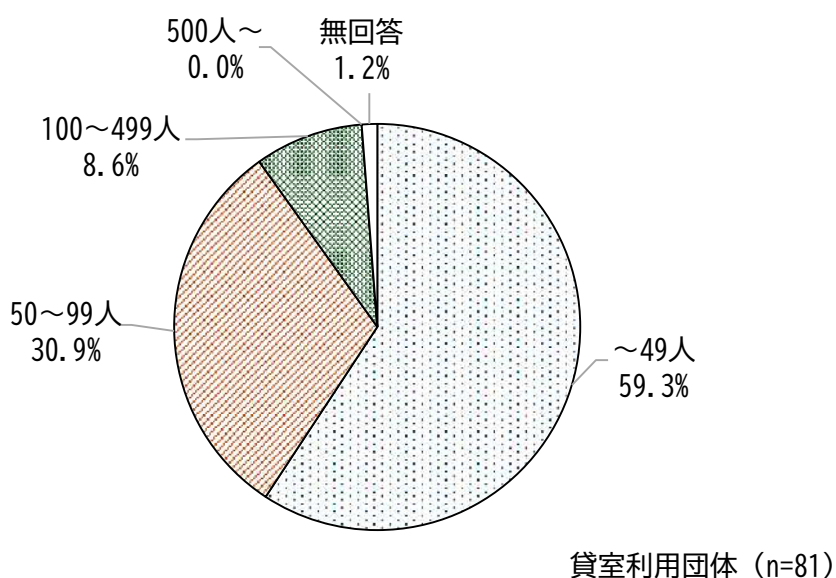
※「その他」は、大会、式典、講習会等



◆活動規模

約6割は「49人以下」、約9割は「99人以下」

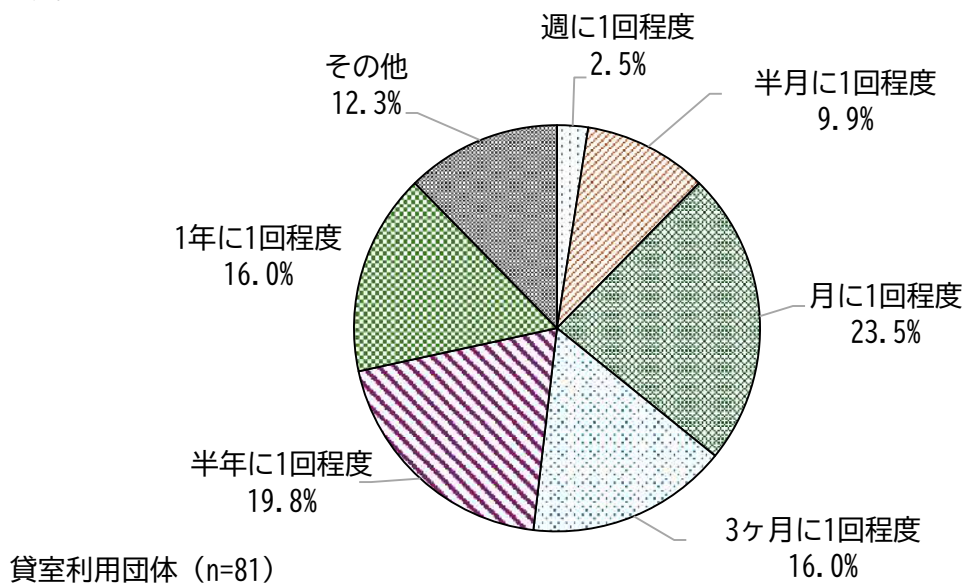
「～49人」が59.3%で最も割合が高く、次に「50～99人」が30.9%で、99人以下の合計は90.2%となっています。



◆利用頻度

5割以上が「3ヶ月に1回以上」利用

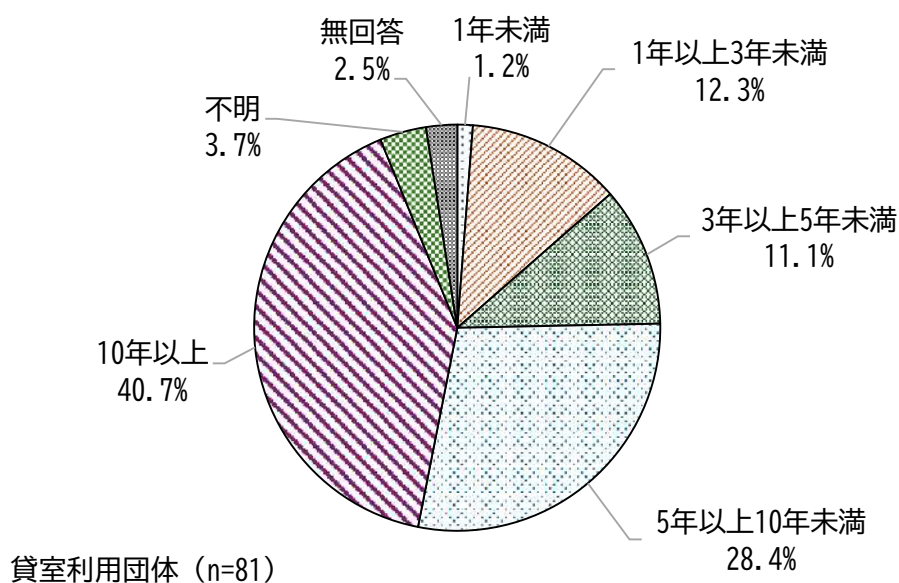
利用頻度は、「月に1回程度」が23.5%と最も割合が高くなっています。月に1回程度以上の合計は35.9%、3ヶ月に1回程度以上の合計は51.9%、半年に1回程度以上の合計は71.7%となっています。



◆利用期間

「10年以上」が約4割、「5年以上」が約7割

利用期間は、「10年以上」が40.7%と最も割合が高くなっています。次いで「5年以上10年未満」(28.4%)、「3年以上5年未満」(11.1%)の順に続いています。5年以上の合計は69.1%、3年以上の合計は80.2%となっています。

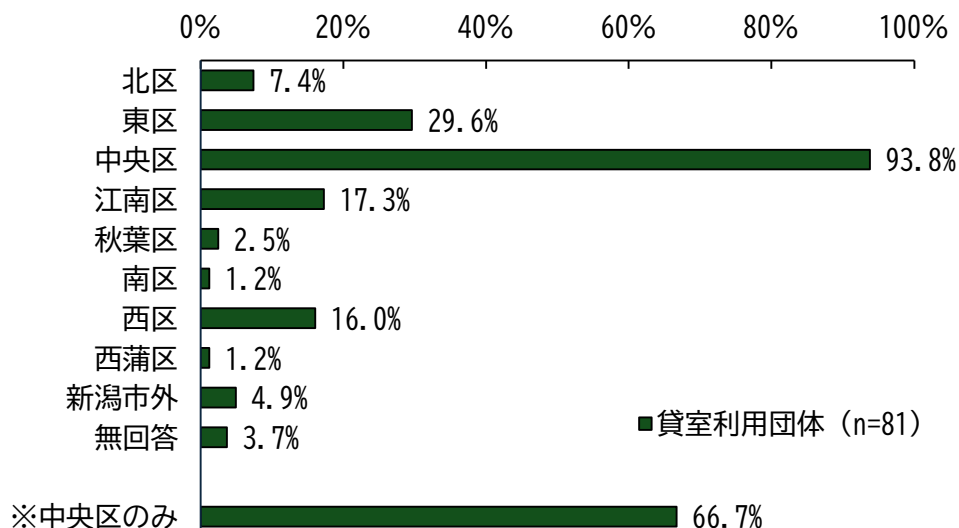


◆他の施設を利用する場合の利用可能エリア

9割以上が「中央区」を希望、一方で3分の1は「中央区以外」でも可能

他の施設を利用する場合の利用可能エリアは、中央区が93.8%で最も割合が高くなっています。次いで「東区」(29.6%)、「江南区」(17.3%)、西区(16.0%)の順に続いています。

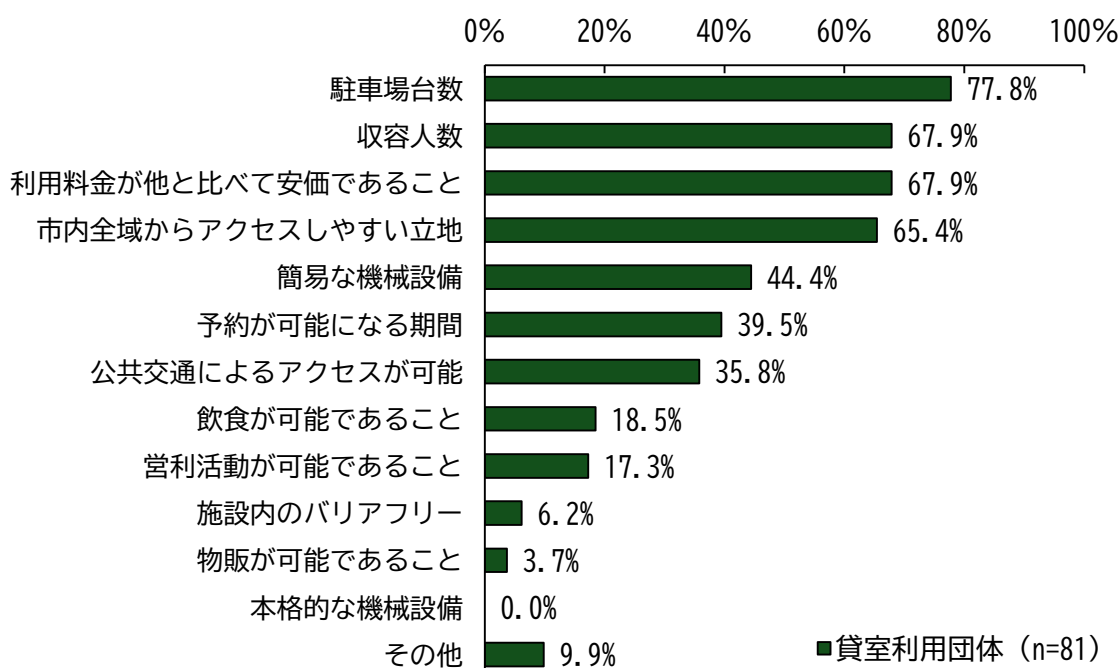
中央区のみを回答した団体は66.7%で、残りの33.3%は中央区以外での開催も可能と答えています。



◆施設を選ぶ際の必要条件

「駐車台数」がトップ。「収容人数」、「安価であること」、「アクセスしやすさ」が続く

施設を選ぶ際の必要条件は、「駐車台数」が77.8%で最も割合が高くなっています。次いで「収容人数」、「利用料金が安価であること」(いずれも67.9%)、「市内全域からアクセスしやすい立地」(65.4%)の順に続いています。



(2). 新潟市民の利用状況

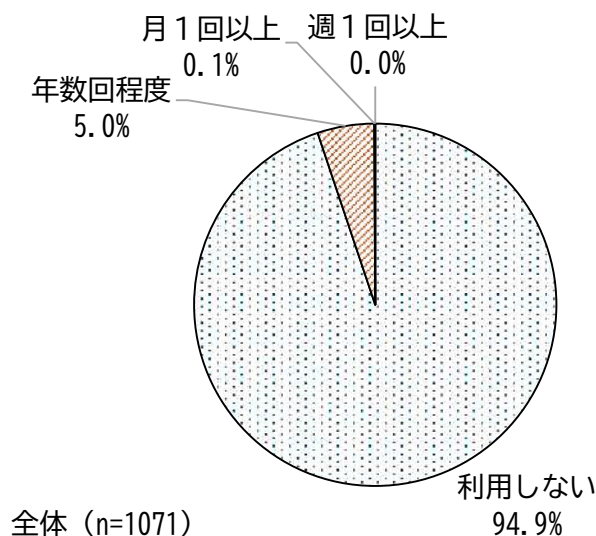
■新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

※15歳以上の市民4,000人を対象にアンケート(1,071人が回答)

◆新潟テルサの貸室(会議室等)の利用頻度

9割半ばは「利用しない・使用しても年数回程度」

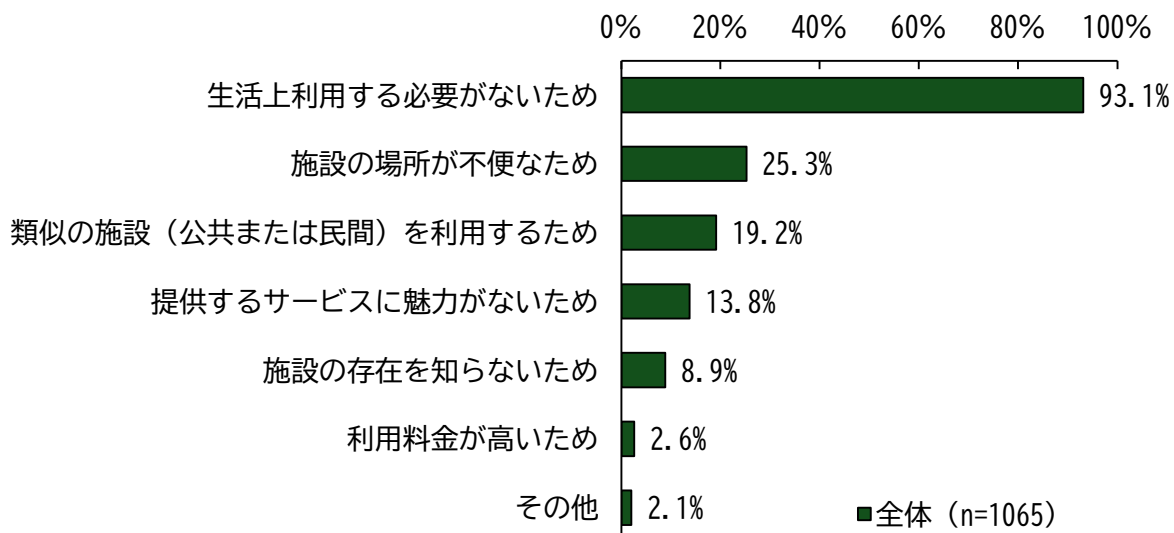
新潟テルサのホールの利用頻度は、「利用しない」が94.9%で最も割合高くなっています。次いで「年数回程度」が5.0%となっています。



◆新潟テルサの貸室(会議室等)を利用しない理由

「生活上利用する必要がないため」が9割半ば

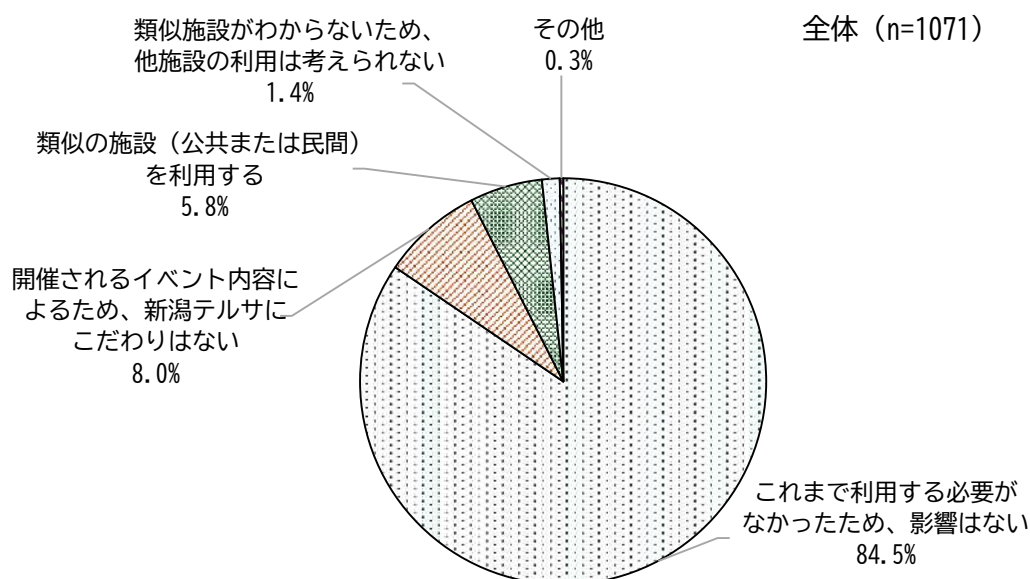
新潟テルサの貸室を利用しない理由は、「生活上利用する必要がないため」(93.1%)の割合が9割半ばで最も高くなっています。次いで「施設の場所が不便なため」(25.3%)、「類似の施設(公共または民間)を利用するため」(19.2%)、「提供するサービスに魅力がないため」(13.8%)、「施設の存在を知らないため」(8.9%)、「利用料金が高いため」(2.6%)の順に続いています。



◆新潟テルサの貸室（会議室等）が廃止になった場合

「影響はない・こだわりはない」は、8割半ば

新潟テルサのホールが廃止になった場合、「これまで利用する必要がなかったため、影響はない」（84.5%）の割合が最も高く8割半ばとなっています。次いで「開催されるイベント内容によるため、新潟テルサにこだわりはない」（8.0%）、「類似の施設（公共または民間）を利用する」（5.8%）の順に続く。「類似施設がわからないため、他施設の利用は考えられない」は1.4%となっています。



4. 新潟テルサ 「フィットネスセンター」の利用状況

(1). フィットネスセンター利用者の利用状況

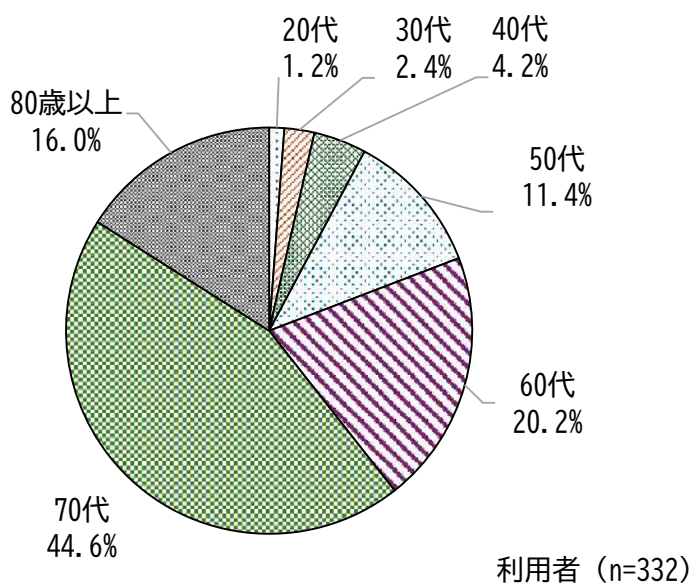
④新潟テルサフィットネスセンターお客様アンケート調査 (R6) より

※新潟テルサの「フィットネスセンター」利用者を対象にアンケート (343人が回答)

◆利用者の年齢

「60代以上」が8割以上

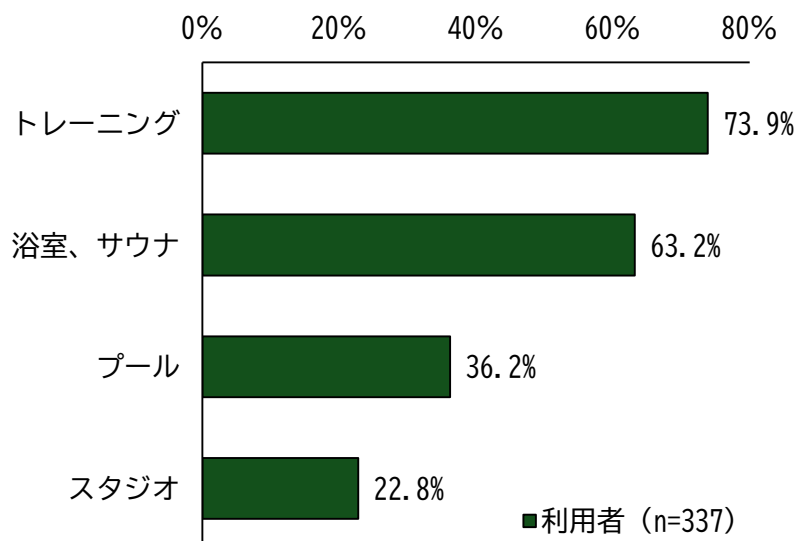
利用者の年齢は、「70代」が44.6%で最も高く、次いで「60代」(20.2%)、80歳以上(16.0%)、「50代」(11.4%)の順が続いています。40代以下は合計で7.8%と1割未満となっています。



◆利用区分

「トレーニング」が7割半ば、「浴室、サウナ」が6割半ばで2トップ

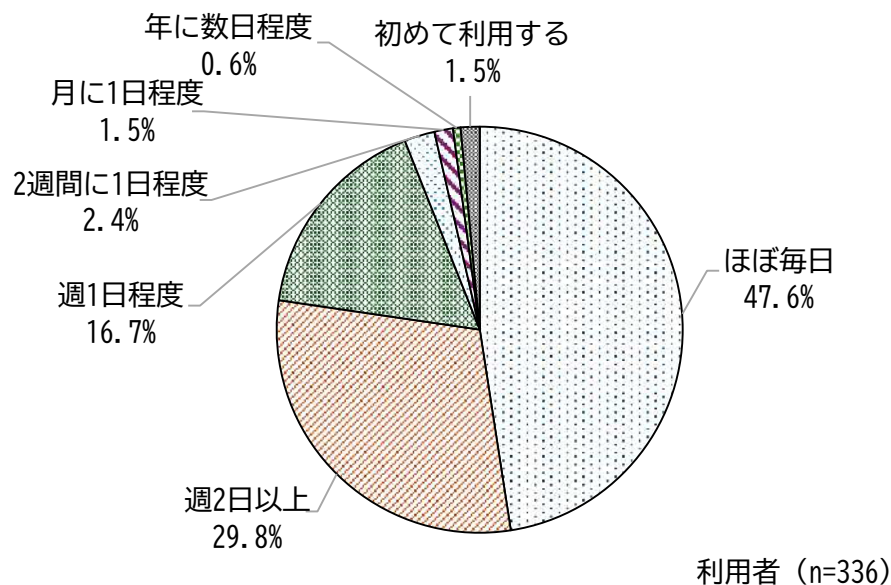
利用区分の割合は、「トレーニング」が73.9%と最も高くなっています。次いで「浴室・サウナ」(63.2%)、「プール」(36.2%)、スタジオ(22.8%)の順が続いています。



◆利用頻度

「ほぼ毎日」が約5割以上、「週1回程度以上」が9割半ば

利用頻度の割合は、「ほぼ毎日」が47.6%と最も高く、「週2日以上」（29.8%）を合わせると77.4%、週1日程度（16.7%）を合わせると94.1%となります。固定的な利用者がほとんどを占めています。

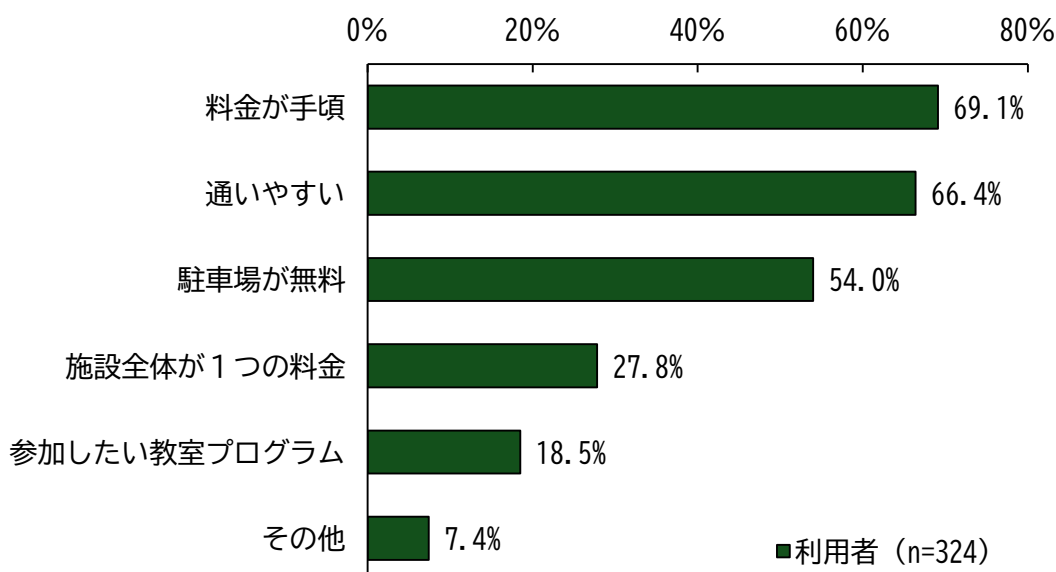


◆フィットネスセンターを選んだ理由

「料金が手頃」と「通しやすい」が6割台後半、「駐車場が無料」が5割半ばで高い

選んだ理由の割合は、「料金が手頃」が69.1%で最も高く、次いで「通しやすい」（66.4%）、「駐車場が無料」（54.0%）の順に続いています。テルサの特徴でもある「施設全体が1つの料金」は27.8%と3割未満となっています。

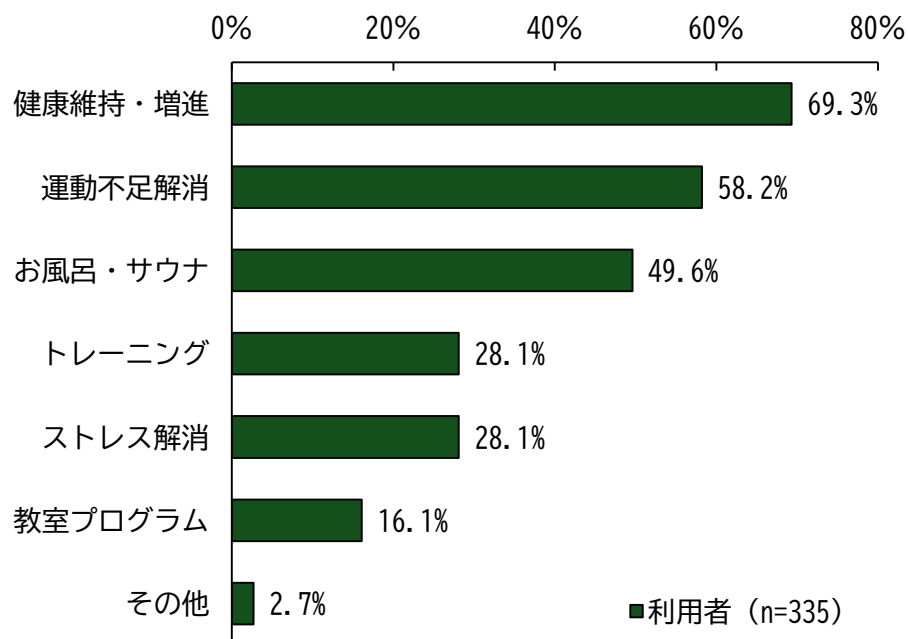
「その他」の意見では、「アクアパーク等他のプールが休館のため」「サウナがあるため」などの意見がみられました。



◆利用目的

「健康維持・増進」が約7割でトップ。「お風呂・サウナ」も約5割と高い

利用目的の割合は、「健康維持・増進」が69.3%で最も高く、次いで「運動不足解消」（58.2%）、「お風呂・サウナ」（49.6%）、「トレーニング」、「ストレス解消」（いずれも28.1%）、「教室プログラム」（16.1%）の順に続いています。



(2). 新潟市民の利用状況

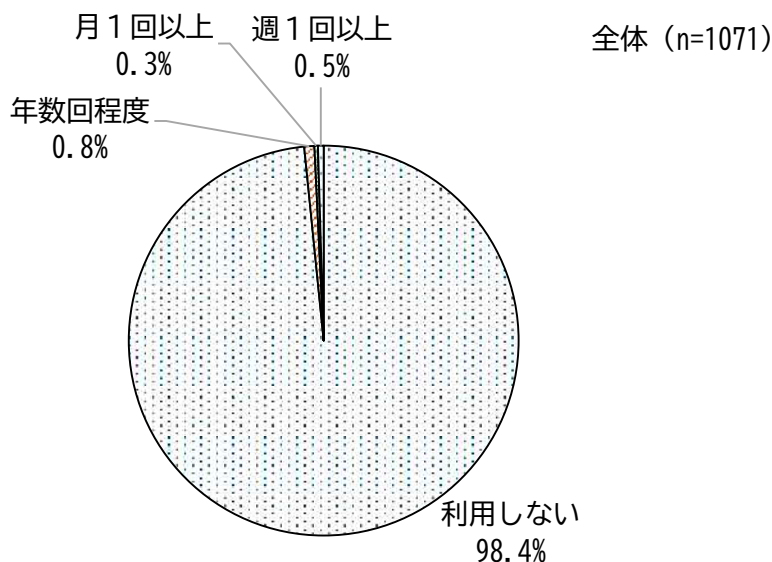
■新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

※15歳以上の市民4,000人を対象にアンケート(1,071人が回答)

◆新潟テルサのフィットネスセンターの利用頻度

98.4%は「利用しない」

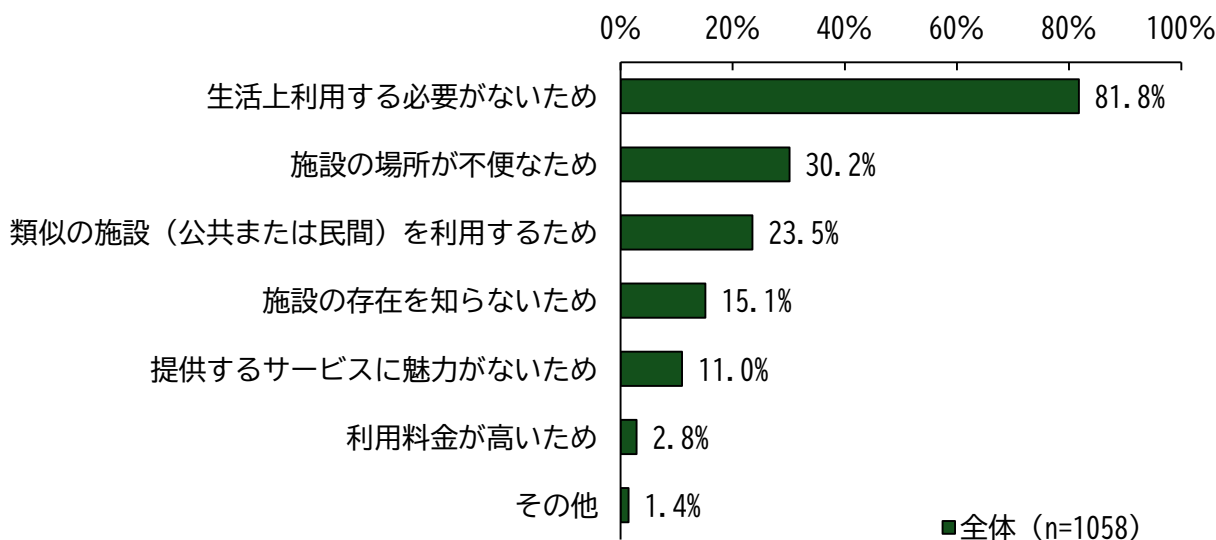
新潟テルサのフィットネスセンターの利用頻度は、「利用しない」が98.4%を占めています。利用することがある割合は合計で1.6%となっています。



◆新潟テルサのフィットネスセンターを利用しない理由

「生活上利用する必要がないため」が約8割

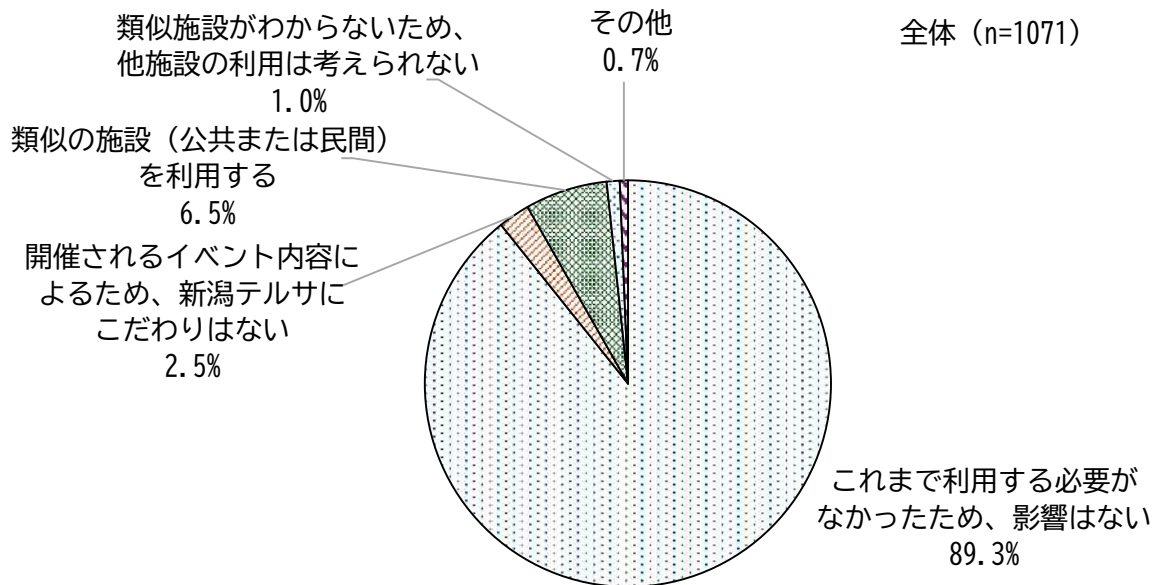
新潟テルサのフィットネスセンターを利用しない理由は、「生活上利用する必要がないため」(81.8%)の割合が約8割で最も高く、次いで「施設の場所が不便なため」(30.2%)、「類似の施設(公共または民間)を利用するため」(23.5%)、「施設の存在を知らないため」(15.1%)、「提供するサービスに魅力がないため」(11.0%)、「利用料金が高いため」(2.8%)の順に続いています。



◆新潟テルサのフィットネスセンターが廃止になった場合

「影響はない・こだわりはない」は、約9割

新潟テルサのフィットネスセンターが廃止になった場合、「これまで利用する必要がなかったため、影響はない」（89.3%）の割合が最も高く約9割となっています。次いで「類似の施設（公共または民間）を利用する」（6.5%）、「開催されるイベント内容によるため、新潟テルサにこだわりはない」（2.5%）の順に続いています。「類似施設がわからないため、他施設の利用は考えられない」は1.0%となっています。



5. 新潟テルサの代替施設

代替可能調査（R6）より

(1). ホールの代替施設

主な代替施設

施設名	所在地	収容人数	駐車可能台数
新潟テルサ	中央区	1,510	約 600 台 (臨時約 1,400 台)
北区文化会館	北区	549	300 台
音楽文化会館	中央区	530	駐車場なし 周辺に有料駐車場あり
りゅーとぴあ（劇場）		903	
りゅーとぴあ（ホール）		2,000	
新潟県民会館（大ホール）		1,730	
江南区文化会館	江南区	399	153 台
秋葉区文化会館	秋葉区	496	233 台
巻文化会館	西蒲区	1,000	160 台

◆コンサート利用

新潟テルサで催されるコンサートは、1000 人以上がほとんどであり、規模的にはりゅーとぴあ（ホール）と新潟県民会館（大ホール）が、代替施設に該当します。開催するジャンルによっては、りゅーとぴあは利用できないこともあり、その場合、代替施設は新潟県民会館のみとなります（コンサート規模 1000 人超の場合）。

いずれも周辺に有料駐車場があり、所在地は中央区の中心部で公共交通機関の便も良く、アクセスしやすくなっています。

新潟テルサと比較すると、りゅーとぴあ、県民会館は、主催団体（興行主）としては、予約の開始時期が遅いことや自動車での利便性が劣る可能性があります。市民（利用者）としては、駐車場が有料であること、居住地によっては、アクセスしにくい（遠い等）といった可能性があります。

◆発表会・研修会利用

新潟テルサでの発表会と研修会での利用は、100～999 人が多く、区の文化会館等、多くが代替施設に該当します。

駐車場は全施設ともにあり、音楽文化会館、りゅーとぴあ、県民会館以外は無料となっています。

主催団体は、中央区以外の立地でも可能という団体が多く、立地的には各区の文化会館は代替施設となり得ます。

規模が約 500 人以上となると、北区文化会館、音楽文化会館、巻文化会館、りゅーとぴあ（劇場・ホール）、新潟県民会館が該当します。

新潟テルサと比較すると、主催団体としては、駐車台数等、市内全域からのアクセスに劣る可能性があります。市民（利用者）としては、居住地によっては、アクセスしにくい（遠い等）といった、可能性があります。

(2). 貸室（会議室等）の代替施設

主な代替施設

施設名	所在地	規模（収容人数）				駐車可能 台数
		大	中	小	和室	
新潟テルサ	中央区	150	62（2室） 54（2室）	20（2室）	8（3室）	約600台 （臨時約1,400台）
東区プラザ	東区	300	100 80 56（2室）	26～38 （4室）	30（2室）	300台
産業振興センター	中央区	150	60	30（4室）		333台
生涯学習センター		-	40～60 （6室）	20～30 （8室）	20（2室）	28台 （有料）
ユニゾンプラザ （県営）		132	88 80 60	20～40 （4室）	（20畳）	220台
横越地区勤労者 総合福祉センター	江南区	240	55	25	24	50台

近隣の産業振興センターをはじめ、新潟テルサと同規模の貸室（会議室・和室）のある施設は多数あります。駐車場は全施設ともあり、生涯学習センター以外は無料となっています。

主催団体は、中央区を希望する団体が多くなっていますが、中央区だけで3つの施設が代替施設に該当すると考えられます。

料金的にはユニゾンプラザ以外は、新潟テルサよりも安く設定されています。

また、貸室は民間でも多く提供されています。

新潟テルサと比較すると、主催団体としては、予約の開始時期が遅くなる可能性があります。市民（利用者）としては、居住地によっては、アクセスしにくい（遠い等）といった、可能性があります。

(3). フィットネスセンターの代替施設

主な代替施設

施設名	所在地	トレーニングルーム	ランニングコース	プール	浴室・サウナ	シャワー	各種プログラム	駐車場
新潟テルサ	中央区	○		○	○	○	○	無料
鳥屋野総合体育館	中央区	○	○	○		○	○	無料
新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター		○	○			○	○	無料
亀田総合体育館	江南区	○	○	○		○	○	無料
民間A	中央区	○		○	○	○	○	無料
民間B		○		○	○	○	○	無料

新潟テルサから車で 10 分前後圏内に、フィットネスセンター関連施設は複数存在します。全施設ともに無料の駐車場があります。

現在の利用者は新潟テルサのフィットネスセンターを選んだ理由として、「料金の手頃さ」「通いやすさ」「駐車場が無料」がトップ3となっています。

料金は、利用するコースや時間等により料金が違うため一概に比較はできませんが、全設備利用の場合は新潟テルサが最も安くなります。しかし、市のスポーツ施設は定期券が共通であるため、利用施設の選択肢が広がっています。

新潟テルサと比較すると、市民（利用者）としては、居住地によっては、アクセスしにくい（遠い等）といった、可能性があります。

6. 公共施設の統合や廃止・新潟テルサの廃止について

新潟テルサ市民アンケート調査 (R7) より

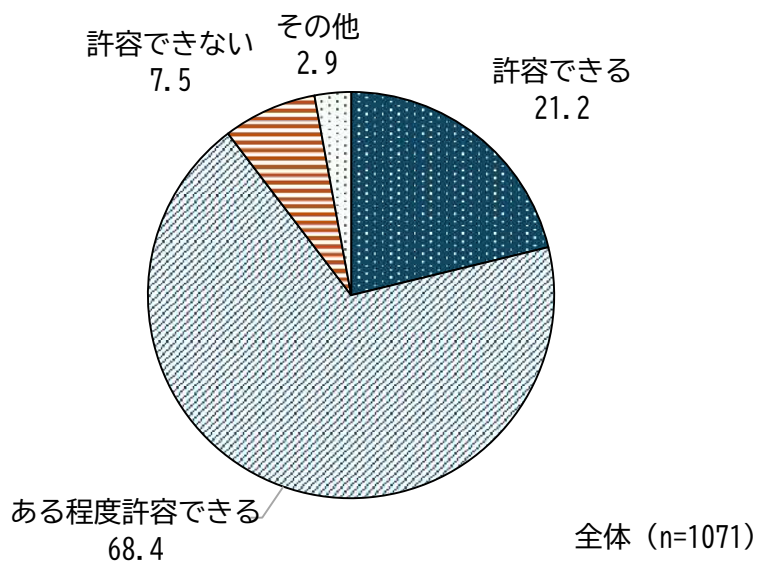
※15歳以上の市民4,000人を対象にアンケート(1,071人が回答)

(1). 公共施設の統合や廃止による利用しづらさについて

◆公共施設の統合や廃止による利用しづらさについて

約9割は「許容できる」

公共施設の統合や廃止による利用しづらさについて、「許容できる」(21.2%)が約2割、「ある程度許容できる」(68.4%)が約7割、合計した『許容できる』(89.6%)は、約9割となっています。「許容できない」は7.5%となっています。

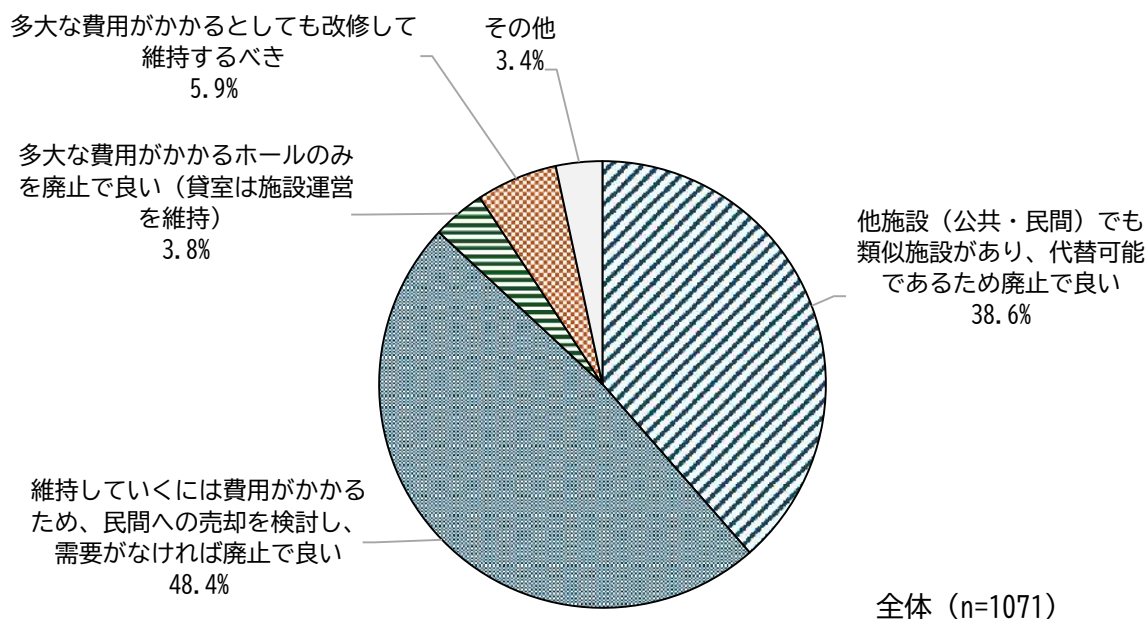


(2). 新潟テルサに対する市の方針について

◆新潟テルサに対する市の方針（令和3年度から10年以内に廃止※フィットネスセンターを除く）について

9割近くは「廃止で良い」

市の方針（令和3年度から10年以内に廃止）についての考えは、「維持していくには費用がかかるため、民間への売却を検討し、需要がなければ廃止で良い」（48.4%）の割合が最も高く約5割となった。次に「他施設（公共・民間）でも類似施設があり、代替可能であるため廃止で良い」（38.6%）が続き、この2つを合わせた86.9%は『廃止で良い』と答えています。「多大な費用がかかるホールのみを廃止で良い（貸室は施設運営を維持）」は3.8%、「多大な費用がかかるとしても改修して維持するべき」は5.9%となっています。



公共施設の統合や廃止に伴う利用が不便になることや、新潟テルサの廃止の方針については、多くの市民が理解をしていると考えられます。

新潟市民全体で、新潟テルサのホールを利用しない人の割合は約7割を占め、新潟テルサのホールが廃止になった場合、「類似施設がわからないため、他施設の利用は考えられない」と回答した人は2.7%でした。

一方で、ホールを利用する興行主からは、新潟テルサが廃止になった場合、イベントの開催数は減少するという意見もあります。リ्यूとぴあとは用途が異なるため、イベントの内容によっては開催数が減少する可能性はあり、市民にとっては、イベントに参加する機会が減少する可能性があります。

新潟市民全体で、新潟テルサの貸室（会議室等）を利用しない人の割合は94.9%を占め、新潟テルサの貸室（会議室等）が廃止になった場合、「類似施設がわからないため、他施設の利用は考えられない」と回答した人は1.4%でした。貸室を利用する団体の半数以上が3ヶ月に1回程度以上利用しており、定期的、継続的な利用の割合が高くなっています。代替施設は多数あると思われるですが、廃止する場合、財政的等の課題の説明や代替施設の案内等、丁寧な対応を早期に実施する必要があると思われます。

同様に新潟テルサのフィットネスセンターを利用しない人の割合は98.4%を占め、新潟テルサのフィットネスセンターが廃止になった場合、「類似施設がわからないため、他施設の利用は考えられない」と回答した人は1.0%でした。フィットネスセンターを利用している人は、週1回以上利用している人がほとんどで、定期的、継続的な利用の割合が高くなっています。代替施設は多数あると思われるですが、廃止する場合、財政的等の課題の説明や代替施設の案内とともに、利用者の意見を聞く等、丁寧な対応と対話が必要だと思われます。

新潟勤労者総合福祉センター
(新潟テルサ)
今後の方針について

発行：令和8年3月

発行者：新潟市財務部財産活用課

〒951-8550

新潟県新潟市中央区学校町通1番町602番地1

電話：025-226-2386